

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 — )

事業所番号	0670700954		
法人名	有限会社キャットハンドサービス		
事業所名	あった家きゃっと		
所在地	鶴岡市藤島字笹花48-12		
自己評価作成日	令和3年11月6日	開設年月日	平成18年4月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出や面会が自粛されている中、運動機能が低下しないよう、普段の生活の中で体を動かすことを取り入れたり、認知症が進行しないよう、生活環境を整え、役割活動を充実させ、楽しみながら職員と一緒に取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 3年 11月 29日	評価結果決定日	令和 3年 12月 14日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、コロナ禍の中にあっても様々な工夫をし、利用者の現在の能力を維持しながら生活できるように支援している。特に、体力の低下を防止するために、生活上の役割の付与、ゲーム性のあるレクリエーションの採用、楽しい体操の活用など、工夫を凝らしている。また、地域で有名なうどんや寿司の出前を取ったり、キッチンカーを招いて調理して貰ったりして生活の楽しみを増している。前回の目標達成計画を踏まえて、職員皆が利用者とかかわりを多くし計画書を毎月評価し「入所者個人個人の日常生活を大切に支援」することが、理念の「ここが良いと思われる場所」の実践に繋がっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所、見やすい場所に理念を掲示しています。毎日朝礼で理念の唱和を行い、月1回の定例会議でも随時、確認しています。	理念を見やすい場所に掲示し、唱和するとともに、会議で時宜に応じて話し合い確認し、理念の共有と実践に向け努力している。昨年の目標達成計画に従い、職員が介護計画の評価を行い、利用者との関りを多くし意向の把握に努め、「ここで良いではなくここが良い」事業所に向け努力している。管理者は、特に、「入所者個人個人の生活を」大切に、役割や楽しみを実践に繋げようと努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍で地域の行事もありませんが、公園の草むしり・地域の防災訓練・敬老会を地域の方々と行っています。今年は、草むしりに参加しています。	従前は、地域の各種行事、生徒との交流、4事業所協力のオレンジカフェなど多くの交流機会があったが、現在は、周囲が住宅地のことも有り控えている。コロナ禍の落ち着きを願って、交流再開を考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所主催の認知症カフェ(オレンジカフェ)にて、催しを楽しむとともに、入所や困りごと、高齢者福祉についての相談等への対応を行っております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回(年6回程)運営推進会議を開催し、市職員、民生委員、町内会長、庁舎福祉課、ご家族、介護相談員、社協からの参加を頂き、意見交換や検討を行い、サービス向上に努めています。職員へは回覧・定例会議にて周知しています。	今年は、1回の会合を行ったが、その後は書面の送付と意見聴取をもって運営推進会議としている。委員・回数は左記のとおりである。送付書面の報告には、前回の評価で目標とした「身体拘束」に係る事項やヒヤリハットについても含まれ、運営・生活の全般に及んでいる。カフェ、コロナ対応、避難訓練などについて意見交換を行い、改善に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の窓口、地域包括支援センターなどに制度等でわからないことは、随時相談しています。運営推進会議への参加や、生保の担当の方とのやりとりもしております。	運営推進会議に市職員の出席があるし、また、介護認定調査や生活保護手続時など機会を捉え相談及び情報交換を行い、協力関係を築くよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	月1回の定例会議で身体拘束についての研修や、拘束にならない為の対策や検討を行っています。また、運営推進会議で参加者の方からの意見等を頂き、サービス向上につなげていくようにしています。	年間研修計画に位置付け、内部研修で、指針やマニュアルに基づいて禁止行為の内容や対応方法について確認している。全職員が感想を書き、それを報告書にまとめている。拘束を必要最小限にするための検討も記録に残している。また、時折帰宅を思い出す利用者に対する声掛け・見守り・寄り添いの具体策も十分に確認し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての内部研修を行っています。職員間でも情報交換を密に行うことで、いい対応ができるよう、心がけています。管理者も随時、対応等の相談にのることで、職員のメンタルヘルスケアを行っております。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度・権利擁護についての外部研修に参加し、内部での伝達研修を行っています。学んだ制度や知識について、職員全体へ周知することで、資質向上へ繋げております。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人とご家族様が納得して入所できるよう、十分に説明しております。わからないことは常にご相談いただけるよう、ご家族様に伝えています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡の際に、日常の様子などを詳しく報告した上で、随時相談等を行っています。聞き取りを行い、早期に対応しています。また、介護相談員の訪問時、ご入居者様の声を受けて対応しています。	現在は行事等も控えているので、従来に増して利用者との日常会話を大切に把握している。家族からは、毎月のお便りに写真を入れたりし関係を深め、諸報告の際に必ず意見要望を訊くよう努力している。ズーム面会の機会も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議の際に、困り事や疑問に思った事、各種提案等についての意見交換を行っています。代表者・管理者は職員と意見交換を行っています。また、年3回、代表者と職員での個別面談の機会を設けています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境整備や勤務変更等は、管理者が随時相談に乗っており、条件等は代表者が年3回の個別面談にて聞き取りをしています。また、外部評価等も職員全員が共同で行い、やりがいや意識の向上に繋がるように取り組んでいます。労働環境は、就業規則についてアンケートを取り改善に努めています。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のチーフ会議で情報・意見交換を行い、職員一人一人の力量等を確認し、指導方法を検討しています。	現在は、毎年研修計画を基に、内部研修を中心に職員のスキルアップを図っている。研修後は全員が感想文をだし、これを報告書として纏めている。外部研修に派遣された職員の伝達研修も行っている。また、管理者等が職員一人ひとりの指導方法を検討するとともに、職員の自己評価表を踏まえて、職員と面談をして自己啓発を促している。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県・庄内GH連絡協議会に入会しており、情報交換に努めています。コロナ禍で、他施設の方々との交流の機会をつくるのが難しいですが、電話やリモートでの研修に参加し、情報共有しています。	例年は、県グループホーム連絡協議会の研修や交換実習に参加させ、情報交換や人的なネットワークづくりを促している。現在は、協力をしている市内の4事業所との交流にも努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメントを行い、ニーズを把握し、事業所内でのカンファレンスを行ったうえで援助方針を決めています。生活の中で変わったことがあった時など、常に話し合いをしながら援助方針の見直しを行っています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	受付相談の際、困っている現状の問題、意向の聞き取りを行っています。その後、利用開始時のカンファレンス等で、思いを話して頂き、対応等を相談・検討していきます。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談時の情報やアセスメント等を基に課題分析を行い、ご本人やご家族の思いやニーズを把握しています。その上で、ご本人・ご家族に確認しながら、今必要なサービスを見極めるようにしています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の出来ることを把握し、毎日の生活の中で役割を分担しながら、協力し合い暮らしを共にしています。お互いに助け合って生活していけるような関係作りに向けて職員が声掛け等の支援を行っています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な連絡以外にも、ご本人の思いや職員が対応に困った時など、ご家族の協力をお願いしています。電話・手紙・ZOOM面会などを活用して、ゆっくりとお話していただいたり気分転換を図って下さいます。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、外出や面会が難しくなっておりますが、電話がきた時など本人と話していただいたり、関係が途切れないように努めております。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、利用者様全員で洗濯物をたたみ、職員と一緒に名前ごと仕分けし配る作業を、運動も兼ねて行っております。職員が一緒に行くことでお互いが支え合えるような関係づくりに努めています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に立ち寄って頂けるような関係作りにも努めています。何か困りごとがあれば、いつでも相談にきて頂けるように声掛けを行っています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話やレクリエーションや調理等を行っている中でも、ご本人が希望や意向を話せるような対話をしながら、ご本人の思いの把握に努めています。また、困難な場合は、ご家族より情報を頂き、ご本人の意向としています。	前回の外部評価の目標達成計画を踏まえて、利用者の思いや意向把握を特に大切にしている。担当者は利用者アンケートを行い、特に、楽しみ、食事役割などの思いを引き出し、それを毎月検討し、支援に活かし、本人本位の確保に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントの際に、生活歴や趣味、嗜好等の調査を行っています。これまでの暮らしぶりや居住環境・配置等の把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当にどんなことをしてほしいか(どんなことが好きか、本人と話しながら決めてもらう)をアンケートを取り、行ってもらうようにしています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いや意向など、日々の生活の中から組み取り、現状の課題を把握しています。月1回の定例会議等や、ご家族とも意見交換を行い、ご本人のケアプランを作成しています。	昨年の目標達成計画に従い、職員が毎月計画の評価を行い、必要に応じてカンファレンスを行い、大きな変化がなければ12か月に1回介護計画の見直しを行っている。見直しに際しては、利用者や家族の思いを十分に聴き取り、その内容を具体的に分かりやすい言葉で記載している。計画は利用者の出来ることや楽しみなどを加えながら、「入所者個人個人の日常生活を大切にしたい」支援に力を入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書の評価を毎月行ってもらうことで、新たな気づきが多く感じられるようにし、一人一人の個性を活かした生活の支援に力を入れています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や包括、地域住民と協力しながら支援できるよう務めています。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所のかかりつけ医や協力医への受診をしています。通院時には職員だけではなく、体調の変化があった際には、ご家族と同行し、状態や状況報告等の支援を行っております。	協力医療機関が近隣にあり連携を築いている。家族又は職員の付き添いで、利用者・家族が希望する医師の受診を継続している。受診時は状態報告を持参し、健康生活情報を提供し、診断結果は電話や「お便り」で報告し合い、そして通院記録に記載し、医療機関、家族、事業所で情報を共有している。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師と情報を共有しながら、体調変化の早期発見に繋げています。また、体調変化が認められる場合には、主治医への連絡・相談や受診を早めに行っています。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、管理者や職員が病院やご家族様との間に入り、退院に向けての相談なども家族と共同で行い、退院後のサポートを行っております。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、入所後の状態の変化時等に、ご本人の意思、ご家族の意向等を確認しています。それぞれの状況に応じて、ご家族、関係者、主治医、当事業所職員が、お互いのできる事や希望する事を相談・調整しながら、チーム全体が連携を密にとり、支援していけるような体制を整えています。	重度化等への対応については、変化があった早い段階から協力医に相談し、医師・家族・事業所で話し合い、方針を繰り返し検討確認しながら対応している。看取りについては、希望ある方について、関係者間で繰り返し情報の共有化を図り対応している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の定例会議、地元消防署の協力を得て、緊急時の対応、救命救急の講演会を行い、勉強しております。緊急対応訓練119、110番通報訓練を行っております。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得て避難訓練・水消火器訓練を行っております。水害のハザードマップの確認や、緊急連絡網を備え、災害発生時には、職員に早く連絡できるような体制・近くの職員が駆け付けられる体制を整えています。運営推進会議で参加者への働きかけや、町内会長との連絡体制をとっております。	年に3回、1回は消防署の協力を得て、避難訓練、消火器訓練などを実施している。実際に利用者を外に避難させることや夜間想定、災害想定など対策に力を入れている。消防署参加時は、評価も頂いている。食料などの備蓄や防災グッズの整備の充実についての話し合いも行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格やプライドに配慮した対応を心がけています。プライバシーの保護の観点から、記録物や個人情報取り扱いについても、理解を深めた上で、援助にあたるようにしています。研修会等へ参加し、対応を学んでおります。	今年度も接遇の研修を行い、特に言葉遣い、声の大きさなど具体的な接し方について学んでいる。その際、利用者一人ひとりへの接し方について、職員一人ひとりの指導を心掛けている。プライバシーの尊重についても、折に触れ確認し合うように努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	好きなこと、やりたいこと、行きたいところなど、普段の会話の中で、ご本人の思いや希望を遠慮することなく話せるような雰囲気、関係づくりに努めています。また、日常生活の中でも自分で決定できるような関わりを大切にしています。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調等をご本人から伺い、希望にそって過ごせるような支援を行っております。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	担当がタンスを整理する際、ご家族様より、季節に合った衣類や本人が好んで着ていた服、好きな色の服を準備してもらっています。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日担当を決めて、職員と一緒に米とぎと味噌汁作りを行っています。畑でとれた枝豆やしその実を使って調理したり、笹巻を作ったりと楽しみながら行っていただけるようにしています。	3食とも栄養士の献立を基に事業所で手作りされている。メニューは、家庭的で多彩である。みそ汁は利用者も調理に加わっている。菜園でとれた食材や大黒様等の行事食など、節感を大切にしている。おやつバイキングやパンバイキングなどイベントを企画し食事が楽しみなものになるよう工夫もある。コロナ禍対応として、地域で有名なうどんや寿司の出前を取ったり、キッチンカーを招いて調理して貰ったりして、楽しみを増している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、併設事業所の栄養士と連携し、一人一人の健康状態(体重・血圧)に合わせた食事を提供しています。個別のチェック表を活用して、食事や水分量の把握と必要量の確保に努めています。			
41		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、一人一人に声掛けを行い、職員が見守りして、ご本人より出来るだけ行って頂いています。確認・磨き残しの手直し、介助等の支援を行っています。			
42	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別チェック表を活用して、一人一人の排泄状況を把握した上で、声掛けや誘導等を行っております。ご本人の思いや習慣などにも配慮して、排泄の自立を目指した支援を行っております。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを確認し合うとともに、適時の声掛けと誘導によって、トイレで排泄できるように支援している。また、パットやリハパンの活用調整等の話し合いなどで、おむつを増やさない支援に努力している。		
43		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維を多く含むバランスの良いメニューの提供と工夫に努めています。また、水分を多く摂ったり、適度な運動、レクリエーション、散歩等を行い活動量を増やすことで、便秘予防に繋がっています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お風呂場の選択(ユニットバス、普通のお風呂)や、週2.3回、その他、ご本人の希望する日に合わせて入浴を行っています。夜間の入浴は行っていません。	利用者の希望を訊いて、週に2・3回は入浴できるように支援している。入浴を好まない利用者に対しては、利用開始前から家族と話し合い、時間や声掛け方法などを工夫している。風呂の選択等により、安全・安心な入浴の提供を心掛けている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活スタイルに合わせて、ゆっくり過ごして頂けるように声掛けをしています。ホール内にソファを設置し、いつでも休息できる環境と時間を確保しております。夜間の就寝時間もご本人の生活リズムに合わせております。		
46		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての副作用等を薬剤師より研修を行って頂き、確認しております。日頃より、主治医、調剤薬局と連携して、薬効等の確認しています。また、必要に応じて、主治医に報告しております。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりが役割を持ち、張り合いのある生活が送れるように支援しています。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望と体調に合わせて、畑に行ったり、テラスで日光浴をしながらお茶飲みしたりしています。	従来、立地環境を生かしながら、公園までの散歩、コンビニでの買い物、地域交流農園参加、花見や紅葉狩りなどのドライブなど、様々な外出機会があったが、現在は、左記や、イルミネーション見学散歩によって、楽しく外気に触れ、外出を楽しんでいる。また、代わりに、屋内での運動や楽しさを工夫して、体力の保持と気分転換を図っている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して、外出時には一人ひとりに財布やバッグを持って頂き、個人で支払いができるように見守りの支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、その都度電話や手紙でのやり取りを行っています。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を取り入れ、ご入居者が制作した季節ごとの貼り絵、行事やイベントの写真を展示して、季節を体感して頂けるよう努めています。生活空間の整備として、床暖房の設備、加湿器や空気清浄機の設置にて、ウイルスや感染症対策など環境衛生にも配慮し、居心地の良い空間づくりを行っています。	居間は、加湿器なども加えて温度や湿度が管理され、快適そうである。換気も行われている。季節の花が飾られ、壁面は写真や貼り絵などが貼られ、楽しそうな生活空間となっている。ソファやテーブルなどで利用者が思い思いの場所でゆっくりと過ごしている。居心地が良さそうである。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の希望に合わせて、独りになれる空間を提供しています。気の合う仲間同士での会話を楽しんだりできるよう、ソファを設置したり、テーブルの配置を工夫したりして、個々が思い思いに過ごせる空間を提供しています。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望を伺い、タンスやベッド等の配置を考えた際、転倒の危険がなく安全であることを確認しながら、本人が快適に過ごせるようにしています。	馴染みの家具が持ち込まれ、安全性にも配慮されている。それぞれ好みの飾りつけを行い、自宅と変わらぬ環境で居心地よく過ごせるよう家族と工夫している。清掃にも配慮されている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	老人車や歩行器、ポータブルトイレなど、できることを危険なく継続して行っていけるよう検討しながら対応しています。			